ユネスコ会員綱領

○心の中に平和の守りを固めよう
○すべての人間の尊厳を重んじよう
○教育・科学・文化の発展に努めよう
○民族間の疑惑と不信をのぞこう
○世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

高崎ユネスコ

発行所
高崎ユネスコ協会
高崎市高松町35番地１
（〒370-8501）
高崎市市民部
防犯・青少年課内
電話（027）321-1297

UNESCOの『ホームページ』を開いてみれば・・・!!
～そして、世界はひとつになりました。～

今、ユネスコが注目を浴しております。高崎ユネスコ協会は『より開かれた協会をめざして』ホームページを開設（２０１５.１０．１）いたしました。
そこには、ユネスコ活動の実践をとおして地球市民をめざす決意が込められております。

《樋口克己会長の呼びかけ》

高崎ユネスコ協会では、「つなげよう　深めよう　拡げよう　ユネスコの心」をスローガンに様々な活動に取り組んでまいりました。そこで、「拡げよう」という試みの一環として、２０１５年１０月１日にホームページを開設し、活動内容等を会員はもとより、広く市民の皆様に公開する運びになりました。
今後は広報誌「高崎ユネスコ」だけでなく、その行事や活動の紹介をとおして会員や市民の皆様の参加をお願いしたいと思います。

内容紹介

○ トップページ……ユネスコ活動、本協会の活動方針
○ プロフィール……本協会の組織・あゆみ
○ 活動報告……本協会の活動内容の紹介と報告
○ 案内……行事案内ならびに会員募集

閲覧手順

《手順》　①　インターネット接続　→　②　検索欄に「高崎ユネスコ協会」と入力
日本ユネスコ協会連盟、群馬県ユネスコ連絡協議会、高崎市少年少女合唱団ともリンクしております。

ユネスコの行事にご参加を

○ 国際児童画展
・期　間：平成２８年１月２２日（金）～２７日（水）
・会　場：高崎シティギャラリー　　・開館時間：午前１０時～午後６時
・内　容：高崎市内の小中学生のすばらしい絵画の展示
○ 子どもの幸せを考える研究集会
・期　日：平成２８年１月２４日（日）　・会　場：高崎市中央公民館
・時　間：午前１０時～１２時
・内　容：講演形式で子育てや青少年育成に関するもの。
○ 作文募集と作文集の発行
・内　容：市内小中学生よりの応募作文を２８年１月中に審査のうえ、入賞者を合同表彰式において表彰。同時に、「作文集」を発行。
○ 合同表彰式
・期　日：平成２８年２月２１日（日）　・会　場：高崎市文化会館大ホール
・時　間：午前９時３０分～１２時
・内　容：国際児童画展とユネスコ作文の入賞者の表彰。

高崎のユネスコ力

高崎ユネスコ協会は発足以来、如何に青少年がユネスコ力を育むことができるかを諸活動の根底に置き、その推進に努めてまいりました。

特に、キャンプ活動においてはユネスコを冠とした青少年キャンプへの取り組みが関係者の熱意により、一泊二日から二泊三日、ジュニアリーダーの養成、国際理解と国際交流等を考慮して試行錯誤を重ねてまいりました。

そこには、自然体験を通して異世代間の交流を図りながら「ユネスコ力」を培うという活動として展開されてきました。

まさに、その理想的な姿がそこにあります。

ユネスコ力を培う
第四十三回ユネスコ青少年キャンプ

キャンプ部長（副会長）　串田昭光

子どもたちは、「自然体験に仲良く挑戦＆培おう・発揮しようユネスコ力！」を合言葉に挑戦した。三日間の体験を通して仲間と生活をすることについて考え、思いやる心、協調する心、困難に立ち向かう心などを肌で感じとった。

今年は、倉渕地域遺産めぐりを初めて実施した。それは、自分の住む周辺にある証「先人がよりよく生きるために発揮した知恵、創意工夫をした営み」に気づいてほしいとの願いがあった。子どもたちは炎天下にもかかわらず、仲間と協力をしつつ粘り強く自分のもてる力を発揮し活動をやり遂げた。その有様を称え「ユネスコキャンプ体験証」を手渡し、解団式を閉めた。会員は帰路につく逞しくなった子どもが保護者と会話する後姿に安堵した。

ユネスコの旗のもとに

それにつけても、地域遺産をわかりやすく解説いただいた市川光一先生、須田洋光先生、献身的に子どもを支えた経済大学ボランティアには、感謝を申し上げます。防犯・青少年課など関係各位には、企画や運営の充実に向けきめ細かで力強い支援をいただいた。会員の皆様大変ご苦労様でした。

四十三年目を迎えたキャンプの概要

①期日　平成27年8月10日(月)～12日(水)2泊3日

②場所　倉渕わらび平森林公園（キャンプ場）

③参加者
- ●児童・生徒36名（男女各18名）
- ●スタッフ25名（高経大10名　防犯・青少年課3名　会員12名）

④内容

（第一日目）

子ども代表の宣誓・ＪＲ紹介などの結団式、道租神など倉渕地遺産巡り、村旗説明などの入村式、高倉山登山、カレーライスなどの夕食づくり炊飯①、活動を振り返り一言スピーチなど夕べの集い、班員の名前を覚えるフレンドリータイム、バンガロー宿泊。

（第二日目）

日程確認・目標発表、ラジオ体操など朝の集い、味噌汁・野菜サラダなど朝食つくり炊飯②　サンショウウオに巡り会う烏川源流体験、ソーメンなど昼食つくり炊飯③、ミュージックベル森のコンサート、バーベキュー夕食パーティー炊飯④、村長・班長会議、班の出し物・花火などキャンプファイヤー、バンガロー宿泊

（第三日目）

ハンバークなど朝食づくり炊飯⑤、色紙作成による思い出つくりタイム、ホットドックなどの昼食つくり炊飯⑥、キャンプ旗降納など退村式、子ども・ＪＲ代表の感想など解団式。

スタッフとして学ぶ
自分のことは自分でする力、そして親の有りがたみが…

ジュニアリーダー
（高崎経済大学）池田千祥

今回初めてユネスコ青少年キャンプのお手伝いをさせていただきました。私は炊事の面で、お手伝いさせていただきました。ほとんど初対面に近い状態の小中学生が協力して三日間過ごすことができるのかとキャンプ前日は不安でした。特に炊事の面で火をおこし、飯盒炊飯子供たちの力でできるのか心配でした。最初の飯盒炊飯では失敗してしまった班、おこげを多く作ってしまった班などなかなかスムーズに思いようにいかなかった班が多く見受けられました。しかし、回を重ねていくごとにだんだん子供たちの手際がよくなっていきごはんもほとんどの班がうまく炊けるようになっていました。また、限られた種類のお皿の中で工夫して盛り付けをできていたと思います。

私たちの普段の生活ではコンロをひねれば簡単に火がでてきます。子供たちの多くはお母さんが用意してくれます。しかし、今回のキャンプは自分たちで火をおこし、ご飯を自分たちで用意しなければなりませんでした。ほかにも、自分の身の回りのことは自分でやらなくてはいけませんでした。このキャンプを通じて親のありがたみ、自分のことは自分でやる力、コミュニケーション能力を得ることができたのではないかと思います。

ほっとしました!!

ぼくのユネスコキャンプ
～大成功だった僕の班～

倉賀野小学校６年
小澤洸介

ぼくは、このユネスコキャンプでいろいろな事を体験しました。薪から火をおこしカレーやそうめんを作りました。

高倉山登山や道祖神めぐりをしました。とてもつかれましたが、頂上についた時の景色は格別でした。ユネスコキャンプでは各班でそれぞれ好きな国旗を決めて絵をかき、どうしてそれを選んだのか発表しました。ぼく達はフランスを選びました。なぜかというと、サッカーが強くて、力を合わせてがんばるところから、ぼく達もそんな風にがんばりたいと思ったからです。ぼく達の班は、大成功だったと思います。

また、ユネスコ青少年キャンプに参加したいです。

ユネスコ青少年キャンプに参加をして
～くり返しがんばること、協力することの大切さを～

城東小学校５年
中林和花夏

私は初めてユネスコ青少年キャンプに参加をしました。その中で心に残ったのは、飯ごうを使ってのご飯作りです。

一日目は、慣れない作り方で半生になってしまいました。二日目は、少し上手に炊くことができました。三日目になってやっとおいしいご飯が出来ました。

私には、このご飯作りで、練習をすれば出来るようになるということを学びました。また、キャンプでは一人ではなくみんなで意見を出して、協力することが大切だと思いました。この体験を学校生活でも生かしていきたいと思います。

道祖神めぐり

高倉山に登頂

小さな外交官の役割を果たして

第三十七回国際理解バス

国際理解バス副部長（副会長）　豊泉君代

夏休みも少なくなった八月二十一日、第三十七回ユネスコ国際理解バスが行なわれました。参加者は児童・生徒34名、引率者5名と添乗員の40名でした。

ラトビア大使館にて

午前中は市ヶ谷にあるジャイカ地球ひろば、午後は渋谷にあるラトビア共和国大使館を訪問しました。子どもたちは六班に別れてそれぞれ中学二年生が班長になり、出発式の挨拶、ジャイカと大使館でのお礼の言葉、解散式の挨拶を分担しました。車中は久保副部長のクイズ問題で過ごすなど、すっかり親しくなった子どもたちがおしゃべりに花を咲かせました。

ジャイカ地球ひろばでは青年海外協力隊でラオスに派遣された女性隊員が映像を交えラオスを紹介し、自分の役割であるコミュニティー開発で現地の女性たちが作る手芸品を商品化する手助けや人々を繋ぐ地域づくりへの協力でした。

又、地方で災害に見舞われた際には率先して、支援物資や寄付を集めたりして貢献をしたようです。蛙やもぐらを食料とする貧しい現地生活に溶けこむなどの逞しい体験も語ってくれました。

その後、ボランティアの大学生と一緒に体験コーナーを班別研修しました。昼食は館内のレストランで異国情緒あるお料理をいただきました。今回の参加者は抽選により女子が圧倒的に多く、やや少食でごはんやカレーの残りが目立ちました。

続いてのラトビア大使館ではノールマンス・ペンケ大使が一時間にも亘り映像を交えて国の紹介をしてくれた後、質疑応答の時間をもちました。

一五一〇年に世界に先駆けてクリスマスツリーを飾ったのはラトビアなので、ツリーを見たら思い出してほしいとか、冬、春、夏、秋の四季があり、湿度が低くて過ごしやすいので、戸外で歌や踊りを楽しんだり、海や山のスポーツも盛んなようです。お話を伺いながらラトビア国に行ってみたくなりました。子どもたちも下調べをして来ており、質問の手が次々に挙がりました。

最後に手づくりプレゼントを大使に渡し、お土産にバッチをいただいて、記念撮影をし、大使館を後にしました。

三十七回目という継続活動のおかげでしょうか、子どもたちも年々向上しているように見えました。

小さな外交官としての思い出は子どもたちの記憶に残ることでしょう。

国際理解バスに参加をして『世界について考えた日』

高崎市立豊岡中学校2年　仁井田　瑞希

先日の国際理解バスでは、大使館やジャイカに行きました。初めて体験したことも多く、夏休みの良い思いでになりました。

最初にジャイカに行きました。世界には日本のように平和な社会で暮らすことができない子どもたちがいること、貧困の中で生活せざるをえない子どもたちがいることを学び、僕の生活との違いに驚きました。昼食もジャイカで食べましたが、ピリリと辛いカレーも家のカレーとは違い驚きました。

次に、ラトビア大使館に行きました。通常大使館には入れないそうなので、とても貴重な体験でした。大使の話は、とてもわかりやすい話でした。自然豊かなラトビアには僕は魅力を感じ、行ってみたくなりました。また、握手をした大使の温もりは忘れられません。

僕はこのユネスコ理解バスに参加でき、とてもよかったです。初めは、知らない人ばかりだったので、不安も大きかったのですが、参加した人たちとはすぐに友だちになりました。インターネットやテレビなどでも、世界のことは学ぶことはできます。しかし、実際に体験したことや大使に話を聞くことで世界をより身近に感じ、これから僕に何ができるのかを考えるきっかけとなりました。このユネスコ国際理解バスで学んだことをこれからの生活につなげてゆきたいと強く思っています。

最後になりましたが、当日お世話になりました方々に「ありがとう」と伝えたいです。本当にありがとうございました。

国際理解バスに参加をして
『困っていたら、助け合い』

高崎市立並榎中学校2年
田島　麗

私はこの国際理解バスで、ＪＩＣＡ地球ひろばで学んだことが一番印象に残りました。なぜなら、青年海外協力隊の方々の体験談やＪＩＣＡが世界で行なっている取組みなどを聞いて、衝撃を受けたからです。

青年海外協力隊とは、発展途上国に行って発展に向けての活動を様々な場面から支援するという団体です。ＪＩＣＡ地球ひろばでは、主にその海外青年協力隊の取り組みについての展示や体験スペースなどでわかりやすく学べるところです。

展示スペースで、私は新聞紙で作られた紙袋を見つけました。それは、フェアトレードという取組みで、貧困な途上国の子どもたちが作って、日本で売られたものでした。これにより、お金に困っていた子どもたちも、食べ物が食べられるようになったそうです。

そして、私が一番衝撃を受けたのは、日本で支援をしているだけでなく、発展途上国の国々も、日本を助けてくれるということです。

日本の食糧自給率は約四十パーセントととても低く、食料のほとんどを輸入にたよっています。そんな中で、日本の食糧の一部を作ってくれているのが、発展途上国なんだそうです。日本にとっても、発展途上国はなくてはならない存在であり、常に互いに助け合っているということに、私はとても感動しました。

ＪＩＣＡ地球ひろばにて

このような体験をして、私は世界でも困っていたら助け合うということを学びました。私も今後、助け合いをモットーに、今回の体験を役立てていきたいです。

国際理解バスに参加をして
『広がる格差』

群馬県立中央中等教育学校2年
塚本　涼花

「私達は、Ｗｏｒｌｄ　Ｃｉｔｉｚｅｎ―地球市民としての行動が求められている。」

私がＪＩＣＡのスピーチの際に話したことです。そして、私が通う中央中等教育学校が掲げている目標です。国境、人種、言語の違いを超え、同じ地球に住む人間同士として接する姿勢。これこそが国際社会の中で重要であること、今回でより深く感じることができました。

ＪＩＣＡでは、「先進国と発展途上国との格差」について考えさせられました。私より幼い子供達がえんぴつとノートではなく、工具や水汲みバケツを手にして働いている。大人が起こした戦争で道具のように扱われ、命を散らす、もしくは不自由な生活を強いられる。先進国である日本で暮らす私達と発展途上国に生まれた彼等には圧倒的な格差が生じてしまっている。何かできる事はないだろうか。理屈抜きでそう思いました。私達はまだ子供で、自分で選べる選択肢は大人と比べれば少ないです。しかし、彼等と比べたら、私たちが取れる選択肢は決して少なくはないです。私達が生まれた時に、もうすでに格差はついていました。その事実がゆらぐことはありません。しかし、私達はこれから生きていく中でその格差をうめる努力をすることができます。私は今後も、彼等の現状から目をそらすことなく、考えを深めていくたいと思います。

ラトビア大使館では、コミュニケーション能力の重要さを感じました。私は、ラトビアという国について興味をもったのは勿論ですが、特に言語について興味を持ちました。ラトビアではラトビア語が公用語であり、同時にロシア語も多くの場で使用されているそうです。しかし、大使はどちらでもなく英語によるスピーチをされておりました。世界共通語のありがたさを感じたのは、これが初めてでした。中学二年生レベルでの能力では、全ての意味を理解することはできませんでした。しかし、英語を極めればほぼ地球上の全ての人とつながることができるのではないかと思いました。

今回、私は発展途上国の子供を援助したいと思いました。そして、それは言語能力が求められるということが分かりました。国際社会に関心を持ち、考えていきたいです。

ＪＩＣＡ地球ひろばにて

世界寺子屋運動から学びの場が広がって!!

◆ 高崎ユネスコ協会の取り組みから ◆

《森野玲子委員長の呼びかけ》

ユネスコ活動の大きな柱として、世界寺子屋運動があります。高崎ユネスコ協会では、この運動に重点を置き、「コ・アクション募金」や「かきそんじはがき回収キャンペーン」を進め、毎年多くの皆様のご協力をいただきました。皆様の善意からいただいたハガキや募金は、日本ユネスコ協会を通じて、各国の学校建設支援や東日本大震災子ども支援募金として子どもたちの学習支援に大切に使わせていただいております。

近年の「コ・アクション」の実績については別表の通りです。この表からも、私たちの地道な運動が、大きな力として結実していることがわかります。また、「書きそんじはがき」の回収についても、市内小中学校や公民館の協力により、おおきな成果を上げております。心からお礼申し上げます。

「世界寺子屋運動」の趣旨をご理解のうえ、今後ともご協力をいただきますようお願いいたします。

数々の絆が生まれて…。

ネパール、バングラデッシュ、タンザニアとの児童画や音楽の交流です。

ベトナムの北部山岳地域少数民族学校建設支援では、国を挙げての交流が生まれており、高崎市にもその使節団が来られております。その交流は岩鼻地区の自治活動に学ぶ途が開かれるなど、大きな成果をもたらしました。

又、会員との交流もなごやかに行なわれており、ユネスコの本来の姿がそこにあります。

その支援実績は…。

年　度	寄　贈　先	金　額	年　度	寄　贈　先	金　額
昭和63年	インドシナ・ネパール教育	97,009円	平成14年	ベトナムとアフガニスタン寺子屋運動	398,604円
平成元年	マレーシア、ネパール、インドネシア教育	64,605円	平成15年	世界寺子屋運動	310,848円
平成2年	バングラデッシュ、マレーシアセントニコラス盲学校	178,435円	平成16年	同　上	212,802円
平成3年	ネパール遺跡復興、インドマンガロール教育	77,406円	平成17年	同　上	494,472円
平成4年	マンガロールユネスコクラブ教育	70,482円	平成18年	同上と世界遺産運動	497,906円
平成5年	同　上	51,538円	平成19年	同　上	329,561円
平成6年	同　上	55,513円	平成20年	同　上	305,788円
平成7年	同上と世界寺子屋運動	304,493円	平成21年	同　上	275,985円
平成8年	同上と世界寺子屋運動	215,673円	平成22年	同上と東日本大震災	357,745円
平成9年	アンコールワット遺跡と世界寺子屋運動	237,600円	平成23年	カンボジア、世界寺子屋運動と東日本大震災	386,235円
平成10年	世界寺子屋運動	184,377円	平成24年	世界寺子屋運動と東日本大震災	323,252円
平成11年	同　上	166,124円	平成25年	世界寺子屋・世界遺産運動	377,121円
平成12年	ベトナム北部山岳地域少数民族学校建設	770,654円	平成26年	世界寺子屋運動と東日本大震災	442,762円
平成13年	同上とアフガニスタン寺子屋運動	438,559円	募金総額	７，６２５，５４９円	

あとがき

『わくわくしております。』

まさか、ホームページを開設する瞬間がくるとは思いもよりませんでした。その中核となり邁進した会長をはじめ、松本千恵子さんには大いに刺激を受けました。

前を向いて、創めることですね。

その取り組みが五十周年への途を拓き、会員各位の励みと力を引き出すものと確信しております。

早速『ホームページを開いてみよう！』

（相原）

ベトナム学校建設支援